

〔科目名〕 大学基礎演習	〔単位数〕 1 単位	〔科目区分〕 キャリア教育科目
〔担当者〕 足達健夫、江連敏和、大森史博、 大矢奈美、金子輝雄、國方 明、 中川宗人、七宮 圭、成田芙美、 安田公治、横手一彦（五十音順）	〔オフィス・アワー〕 時間： 第一回目の授業時に知らせる。 場所： 第一回目の授業時に知らせる。	〔授業の方法〕 演習
〔科目の概要〕 本学で何を学べるのか、それが自分の将来のキャリアとどのようにつながるのか、しっかりとつなげるためには何をどのようにすればよいのか、などを仲間とともに考え、議論するなかから、みずからのキャリアに対する意識を育んでもらうための科目である。あわせて、大学生活を送るうえでのルールや学習の仕方、教育課程の全体像も学ぶ。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 高校とは異なる環境である大学という場になじみ、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を作るための基礎的な情報を得ることができる。本学で何を学べるかを理解することで、大学教育全般に対する動機づけにもなり、大学での学びの見通しをつけることができる。また、大学のなかに人間関係を構築することにより、大学生活をより充実させ、学習意欲を高めることができるであろう。さらに、高校までの受動的な学習から、能動的で自立的・自律的な学習態度への転換を図るための基本的な心構えを学ぶ。 自分の将来の夢を描き、キャリアに対する動機づけを高めると同時に、夢を実現させるために大学で何をすべきかを考える方向につなげていってほしい。その一方で、大学生として何を学び、卒業時にどのような学生になっていたいかを考えることが、そのまま将来のキャリアにつながっていくであろう。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 到達目標 ・大学の理念・目的を理解する ・将来のキャリアに対する意識を高める ・キャリア形成を踏まえ大学での学びの見通しをつける 中間目標 ・大学という生活環境を理解する ・大学のなかに人間関係を構築する		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 おおむね良好であった。例年と同様、今年度もグループ活動を中心に、授業をすすめていきたい。		
〔教科書〕 なし。		
〔指定図書〕 なし。		
〔参考書〕 適宜指示する。		

〔前提科目〕 なし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業中の活動・貢献と、レポートによって評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕 A : 100～80 B : 79～70 C : 69～60 D : 59～50 F : 49～ 0	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありうる。変更が生じたら、授業内や学内掲示などで連絡する。 ・自分自身のための学びであるという自覚をもって授業に臨んでいただきたい。教員は支援する立場である。 ・キャリア形成講座(第5回授業)にはかならず出席すること。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 本学での学生生活 内 容: 本学のルールなどについて 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): グループ活動 内 容: 自己紹介など 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 本学で何を学ぶか 内 容: 本学の教育課程などについて 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 勉強の仕方 内 容: 高校と大学の授業の違いなどについて 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): キャリアとは何か 内 容: キャリア形成講座への参加 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): グループ活動 内 容: キャリア形成講座を踏まえたグループ・ディスカッションなど 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 秋学期以降に向けて 内 容: 四年間の学修を計画してみる 教科書・指定図書
試 験	期末試験を実施せず、レポートを課す。